

第89回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時 2023年11月16日（木） 9:00-10:00
2. 場所：Web会議（Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、石原、工藤、黒川、小山、佐藤、鈴木、田村、仲田、西村、平井、見上、山本
（欠席 田中（杉山幹事に委任）、高橋、鳥居、中村）（敬称略）
4. 配布資料
 - ① R3SC-89-1 人事案件
 - ② R3SC-89-2 第88回廃止措置分科会議事録（案）
 - ③ R3SC-89-3-1 耐震安全技術レポート（中間報告）に関する基盤応用・廃炉技術専門部会 審議結果について
 - ④ R3SC-89-3-2 実用発電用原子炉施設の廃止措置における放射線被ばくリスクに応じた耐震クラス設定の考え方（案）
（基盤応用・廃炉技術専門部会 技術レポート耐震安全技術レポート本文（案））
 - ⑤ （参考資料）ATC60-6 基盤応用・廃炉技術専門部会
標準策定5か年計画（2024年度版）（案）
5. 議事
 - (1) 一般事項
 - ① 委任を含め16/20名の出席により分科会成立を確認した。
 - ② 人事案件 今回はなし
 - ③ 次回以降分科会は、12月 8日 13:00～15:00（オンライン開催）
12月22日 15:00～16:30（オンライン開催）
 - (2) 前回議事録確認 [R3SC-89-2]
特にコメントなし
 - (3) 耐震安全技術レポートの専門部会中間報告結果について [R3SC-89-3-1及び-2]
 - ① 担当委員からR3SC-89-3-1を基に専門部会への中間報告結果及び次の事項の説明があった。
 - ・石川部会長及び専門部会委員には、安全重要度ランクについて安全評価基準に示した判断基準から変更したことを説明し、ご理解いただいた。
 - ・今後の予定として、原子力安全検討会及び日本電気協会耐震設計分科会での説明することを紹介した。
 - ・日本電気協会耐震設計分科会に対しては、標準委員会への中間報告説明後、勉強会の形で説明を実施する。
 - ・専門部会意見募集は先週の部会後30日間とのことで開始された。

- ・標準委員会への中間報告（審議なし、報告のみ）は専門部会の中間報告意見募集コメント反映後（2024年3月）に実施する予定である。
- ② 岡本主査から、基盤応用・廃炉技術専門部会だけでなく、システム安全専門部会に説明した方がよいかもしれないとのコメントがあった。
- ③ 岡本主査が原子力安全検討会に出席し説明予定である。原子力安全検討会は、後日調整の結果、2024年1月30日（火）9時から12時（オンライン）となった。
- ④ 岡本主査から米国廃止措置（SONGS、TMI-2）の視察についての紹介があった。視察を通じて、検討中の技術レポートは世界の技術潮流からそんなに外れていないが、線量の高い廃棄物の処理処分であることを念頭に、保守的になりすぎず、リスクに応じた適切な管理の提案となるように議論していきたいとの説明があった。
 - ・SONGSはタービン建屋が撤去されていた。廃棄物は別の所に電車で運んでいるとのこと。
 - ・炉内構造物は燃料キャスクに近い容器に収納されてサイト内保管廃棄されている。（クラスの高いものとしての扱いがされている）
 - ・リスク低減が一番の重要事項と認識されている。廃止措置施設はすべて廃棄物であり、何もせずに長期間置いておくリスクよりも、瞬間的にはリスクが上がっても即時に短期間に廃棄物を安全な形にして撤去する方が全体としてのリスクが小さくなり、かつ廃止措置が進行できる。
 - ・米国は民間が主体となって安全確保を考え廃止措置を進めている。ただし、NRCの監視も厳しい。
 - ・米国では耐震クラスの考え方があまり明確でない。
 - ・too much conservative は廃止措置を停滞させるだけでよくない。廃止措置はあくまでも廃棄物の処理の観点で安全確保を考えるべきであり、運転中の原子炉とは考え方を変えることが必須である。
- ⑤ 委員から④の件について、我々が議論しているような安全評価を米国でも実施しているかについて岡本主査に確認したところ、詳細については未確認であるが、PAの観点では実施しているとのことであった。
- ⑥ 米国の状況をご報告いただいて、改めて炉内構造物への対応がしっかりしていることが分かり、当方の現在の検討の方向性が間違っていないと理解でき、安全に実施できることをしっかり示すことが重要と認識したという意見が担当委員からあった。また、有識者への意見聴取で定性的であってもリスクマトリックスを作成してリスクを整理することが必要との意見をいただいている。作業要領書などでの事故防止対策なども活用しながら整理する必要があると考えているとの発言があった。この事に対し、岡本主査からリスクマトリックスというよりはリスクプロファイルを明確にして、リスクの箇所、発生頻度などを示すとともに時間の概念を入れることが重要であるとのコメントをいただいた。

(4) 標準策定5か年計画等の作成（2024年度版）

- ① 杉山幹事から、専門部会より5か年計画の作成について依頼があった。締め切りは1月15日である。
- ② 2025年度の5か年計画の案を作成することとなった。関連する委員（山本委員、目黒副主査、田中委員、工藤委員、西村委員）が原案を作成し、杉山幹事が取りまとめ、次回分科会で確認することとなった。

以上